

未来への翼

2025
Autumn



表紙

第53回 八戸工業大学学園祭〈工大祭〉開催！

10月11日(土)・12日(日)、第53回〈工大祭〉を開催しました！サークルや研究室による模擬店や屋外での企画、ご当地アイドルのライブやタレントトークショーなど盛りだくさんの内容で、盛り上がりのうちに終了しました。（写真：ADL（建築デザイン研究会）による模擬店、軽音楽部によるライブ）

H.I.T.活動報告

学長通信





それぞれの記事は、大学ホームページでもご覧いただけます。
ぜひチェックしてください！

学生の活躍

国際園芸博覧会 デザイン案を知事に報告

2027年に神奈川県横浜市で開催される「GREEN×EXPO 2027(国際園芸博覧会)」の青森県ベースのデザイン案を、感性デザイン学部の2年生有志が制作しました。11月12日に宮下知事を訪問し完成を報告。コンセプトなどを説明し、知事からは「ストーリー性や感性がすばらしい」とのお言葉をいただきました。



ETロボコン2025東北地区大会 総合優勝！

9月20日に開催されたETロボコン2025東北地区大会において、システム情報工学コース 山口広行准教授の研究室チーム〈ヒット＆ラン〉が、「総合優勝」に輝きました。また、「競技優勝」「ゴールドモデル賞」「IPA賞」も受賞。11月には、4年連続8度目となる全国大会に出場しました。



♪ 〈同窓生の集う会〉を開催しました



10月18日、〈同窓生の集う会〉を開催しました。第一部では船崎学長が「2027年改組を八戸工業大学の"未来への翼に"」と題し、本学の現状と今後の構想について講演。第二部では、卒業生や教職員約60名が集い、旧交を温めました。旧教職員によるテーブルスピーチも行われ、盛況のうちに終了しました。

♪ リーグ戦初優勝！

バレーボール部 インタビュー



9月20日～10月26日にかけて、東北地方各会場で行われた「第66回東北バレーボール大学男女リーグ戦」に本学バレーボール部が出場しました。予選リーグを全勝で1位通過し、最終結果は9勝1敗で見事優勝！創部史上初の成績を残した同部から、キャプテンの種市耕己さんと4年生の武田来夢さん、本学OBである黒滝泰世監督にお話を伺いました。



黒滝さん 種市さん 武田さん

●優勝おめでとうございます！ 決まった時の気持ちは？

種市：純粋に嬉しかったです。練習の成果が形になったと思いました。

武田：昨年優勝に手が届かなかった先輩たちにも、恩返しができたという気持ちでした。

黒滝：自分が学生時代ともに戦った仲間、指導者として出会った選手たちの顔が浮かび、感極まりました。

4年生のがんばりが大きくて、素晴らしいなと思いました。

●リーグ戦で印象に残っている試合や対戦相手は？

種市：東北学院大学との最終戦です。勝てば優勝が決まるという、緊張の一戦でした。

武田：春季で優勝した東北福祉大学との2戦です。どちらも勝てたことが自信になりました。

●春季では準優勝。秋季に向けた練習で、特に力を入れていた点や変わった点は？

種市：部活がある日は、基本的にブロック練習を毎回行いました。

武田：ブロックやディフェンスの練習量を増やしました。試合にも活きたと思います。

黒滝：1年生が春季より試合慣れして、全体の完成度が上がったのもポイントでした。



●キャプテンとして、チームをまとめるために意識したことは？

種市：正直、特に意識はしていません。部活以外でも交流があり、仲が良いチームではありますね。

武田：キャプテンの持つ雰囲気も大きいと思います。

●次の目標を教えてください。

種市：4年生は、12月の全日本インカレが学生最後の大会になります。集大成を見せられるよう、勝って締めくくりたいです。

武田：これまでメンバーにたくさん支えられてきました。自身もプレーで貢献し、皆で勝ちにいきたいです。

●最後に、後輩にメッセージをお願いします。

種市：勝ちにこだわるのも大事ですが、バレーボールができていること、周りのサポートに感謝して臨んでほしいです。

武田：試合に出る・出ないに関わらず、メンバー一丸となって同じ目標に向かってがんばってください。



第2回国際交流ワークショップ

8月21日～8月23日、本学、新疆大学、国立ユーラシア大学の3大学における国際交流ワークショップを開催しました。期間中は、各大学代表者や本学大学院生による英語での研究発表やポスターセッション、学内・八戸市内見学などを行いました。それぞれの内容で活発な交流が生まれ、有意義なワークショップとなりました。



研究者の受け入れ

本学では例年、2025年度 文部科学省放射線利用技術等国際交流(研究者育成)事業により、アジア諸国から原子力研究者を受け入れています。今年度はモンゴルとカザフスタンから一名ずつ派遣されており、9月4日～11月13日まで佐藤学教授(機械工学コース)、石山俊彦教授(電気電子通信工学コース)の研究室で研修を行いました。



受賞のお知らせ



株式会社リバネスによる創業応援事業『エコテックグランプリ2025』において、鮎川恵理教授(生命環境科学コース)「安藤ハザマ賞」を受賞しました。プレゼンしたテーマは「珪藻土でコケ植物緑化技術と遮熱建設材料を開発」で、秋田大学教員や株式会社栄組と共同で研究を行っているものです。

(チーム名: グリーンモス)



(写真右) 硅藻土におけるコケの緑化技術をテーマに卒業研究を行っている、鮎川研究室の小向 鳩真さん



さらなる研究活動の発展へ



一般社団法人日本インフラーキテクチュア検査技術協会より、インフラ検査機材(アイゼンプロスペクター)を寄贈いただきました。本学では2023年、大学構内に橋梁メンテナンス体験施設を整備するなど、インフラに関わる人材育成や研究に尽力。今回の機材もその一助とさせていただきます。9月17日、同協会 理事長の清良平様と株式会社計測技術サービス 営業部課長の前田悠吾様にお越しいただき、寄贈式が行われました。



2027年4月、学部学科改組構想中

HIT

2027.4 UPDATE!

2027年4月、八戸工業大学は3学部3学科へ*

本学では、現在の2学部2学科5コースから、3学部3学科体制へのアップデートを構想しています。本学のビジョンである「工学×デザイン×地域」を高度に進化・深化させ、これから社会に求められるグリーン分野とデジタル分野を強化した新たな学部・学科へ再構築。さらに、社会課題解決に必須な「デザイン思考」の習得にも力を入れ、文系・理系といった既存の考え方と離れてはならないことなく、この国、この地球の「ミライを創る力」を持った人材を育成します。

* 2027年4月開設予定 | 設置構想中 | 設置計画は予定であり、変更する場合があります

H.I.T.
活動報告

地域とともに未来をつくる

本学における教育・研究活動や
学生の活躍などをお届けいたします。



今回の学長通信は広報誌秋号用ですが、主な話題は夏のお祭りに関することです。

東北地方には非常に多くの特徴的な夏祭りがありますが、私が初めて体験した東北夏祭りは仙台の七夕祭りで、仙台での大学院時代でした（1980年頃）。

学部3年までは、実家の家業（農機具商）の手伝いのため夏休み早々帰省しており、仙台七夕とは無縁でした。また、学部4年の時は大学院入試の勉強にほぼ全ての時間を費やしており、さらに、七夕を見ると試験に落ちる、という都市伝説もあったためか、結局学部の4年間は七夕を見ることが出来ませんでした。博士課程3年の夏には、ようやく青森ねぶた祭を見物することができました。研究室の2人の後輩と仙台から自動車で4号線を北上するという長旅でしたが、ねぶたの山車の迫力に圧倒されるとともに、跳人の熱気に大いに感動したものでした。

その後、岩手大学に赴任して以来、夏祭りといえばもっぱら盛岡さんさ踊りでした。夏が近づくと学内では太鼓や笛の音が聞こえ始め、祭りシーズンの到来を感じさせてくれました。その後、観客として眺めたり、大学職員として参加したりしておりました（もちろん踊ったり笛を吹いたりの芸当は全くできず、単なる提灯持ちでした）。



三社大祭の一コマ（八戸中心街を練り歩く山車）

そして今夏、300年余もの伝統ある八戸三社大祭を初めて見ることができました。山車の数の多さやそれぞれの装飾の華やかさ、雄大さや複雑な技巧が凝らされている点などは感動ものです。三社大祭が八戸の人々にとり大切な祭りであることは、300年もの長きにわたり引き継がれ発展している歴史が雄弁に物語っています。

さて、大学での祭りと言えば、学園祭ですね。本学では開学以来「工大祭」を10月に開催しており、今年は第53回目となりました。学園祭は学生主導の一大行事であり、大学における学生の企画力、運営力を測ることができるものもあります。名物グルメを提供し多くのお客様を集める研究室、本学ならではのイベントを打つサークルなど、楽しいお祭りでした。今年度発足した女子学生活動団体「GAL's」が精魂かけて育てたさつまいもを使った焼き芋は無事完売しました。地元アイドルや有名タレントを2日間にわたり招くなど、学園祭ならではの企画にも富み、本学で学ぶ学生たちの成長ぶりを大いに体感できた工大祭でした。やはり、祭りはいいものですね。多くの高校生の皆さんのが工大祭を企画する側として八戸工業大学に入学されることを期待しています。



第53回工大祭ポスター（テーマはIgnition H.I.T. -始まりのスイッチ）



学長通信の全文はHPにて！

編集後記

今号では、海外との連携・交流について2つの記事を取り上げました。いずれも取材をしながら、母語の異なる人同士が研究を通じて同じ話題を共有する姿が印象的でした。また、本学では「外国人特定技能エンジニアプログラム」としてミャンマーから留学生も受け入れています。学びへの意欲が人を輝かせることは、世界共通だと改めて感じます。今後、言語や文化の違う日本で奮闘する姿を本誌でも取り上げたいと考えています。（大学広報・入試広報チーム）



HP・SNSでも情報発信中！



八戸工業大学

Hachinohe Institute of Technology

工学部 工学科

感性デザイン学部 感性デザイン学科

大学院 工学研究科